

## 廃炉作業が進む 福島第一原発を視察

除染後の土を処理する中間貯蔵施設も見学



5/14(木)、社員14名一行は、東京電力福島第一原子力発電所を視察しました。事前に東日本大震災での水蒸気爆発に対応する吉田昌郎所長たちの奮闘を描いた書籍『死の淵を見た男』（門田隆将著）と映画『FUKUSHIMA50』を視聴して臨んだ社員たちでしたが、目の前にそびえる福島原発を前にして、その圧倒的な大きさと、廃炉作業を長い時間をかけて進めている現状を視察しました。また処理水を海中へ放出するために、トリチウムなどの有害物質を取り除く様子などを学びました。それに先立ち、除染した土を管理する中間貯蔵施設を見学。大熊町など地元住民の協力で、大規模な貯蔵施設ができていることなどを学びました。若い社員たちは「ここでの学びを正しく自分の周りに伝えたい」など、多くの学びを得た東北・被災地での研修となりました。

